

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700277		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	神戸須磨ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県神戸市須磨区高倉台6丁目14-22		
自己評価作成日	令和4年5月20日	評価結果市町村受理日	令和4年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年6月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1)開設してまだ2年が経っていない、新しい施設 2)「笑顔」と「自由」の溢れる楽しい施設 3)全国に約350ヶ所の「そよ風」がある大きな会社
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれた高台の静かな住宅地にあり、四季折々の自然を感じながらテラスで外気浴やお茶を楽しんだり、庭の菜園で花や野菜を育てる等、快適に過ごせ環境である。季節感・行事食を採り入れた手作りの食事を提供し、利用者の希望や嗜好を取り入れ食事を楽しめる取り組みに注力している。毎月の行事・散歩・ドライブ・家事参加・菜園活動・制作活動・レクリエーション等、利用者が日常生活の中で楽しみながら活動できるよう支援している。全国的に事業展開する法人が運営する事業所であり、運営体制が整備されている。年間スケジュールをもとに各種会議・委員会・研修・訓練を実施し、PDCAサイクルにもとづくケアマネジメントにより個別支援に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設より2年目を迎え「笑顔と自由」という理念のもと、お客様や職員も笑顔が多く見れる事業所に向け、コロナ禍ではありますが、少しずつ出来る事を行っています。	事業所独自の理念・基本方針を作成している。理念「笑顔」「自由」を玄関ホールに掲示し、「そよかぜ通信」にも毎回掲載し、職員・家族と共有できるよう取り組んでいる。全体会議やユニット会議で、利用者支援や行事等の活動について検討する際は、理念・基本方針に立ち戻って話し合い実践に向け取り組んでいる。	理念や基本方針に地域密着型サービスの意義を盛り込まれることが望まれます。フロア目標や職員の目標管理制度も活用し、理念・基本方針の実践状況を評価しながら、実践に向けた具体的な取り組みも検討されてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、地域のイベント等に参加できていません。散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況です。	コロナ禍の中での開設で、地域行事への参加は行えていないが、自治会に加入し、日頃から自治会長の立ち寄りがあり、事業所の職員を通して自治会や婦人会とのつながりがある。利用者が散歩する際は近隣の人々と挨拶を交わし、馴染みの関係が築けるよう努めている。年末の餅つきの際は地域の人々を招待し、交流の機会を持つことができた。コロナ禍終息後は、地域交流・地域貢献に積極的に取り組む予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり、地域のイベント等に参加できていません。散歩等にて近隣の方に挨拶する程度の状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の開設後、1度しか開催できておりません。未開催時には、現状等の報告書を作成し、請求書等の送付時に同封しております。	利用者・家族・あんしんすこやかセンター職員・自治会長・地域住民代表・他事業所職員を、運営推進会議の構成メンバーとして、令和3年度は、集合開催は実施せず、2ヶ月に1回、議事録(利用者の状況・事業所の取り組みや活動・ヒヤリハット事故・身体拘束虐待防止委員会等)を作成し、「そよかぜ通信」と共に郵送し、報告している。	議事録は設置等により公開することが望まれます。書面開催が継続していることから、意見・情報・質問等の返信用紙を同封し、返信内容を次の議事録で共有する等、書面会議でも意見・情報交換が行えるよう工夫してはどうか。

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの影響もあり、市町村との連携は図れていません。運営推進会議の議事録等を報告するのみです。	運営推進会議を通してあんしんすこやかセンターとの連携がある。区の保護課と協働し、利用者支援を行っている。市からのメールでコロナ関連や運営に関する情報提供を受け、事業所の感染予防対策や適切な運営に反映している。活動は休止中であるが、須磨区のグループホーム連絡会に加入している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。	「身体拘束等適正化のための指針」「身体拘束適正化マニュアル」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。年間スケジュールに沿って、年2回「身体拘束等の適正化研修」を実施している。研修は全体会議の中で実施し、受講者は研修報告書を提出し、参加できなかった職員も資料配布と研修報告書の提出で周知を図っている。「身体拘束等適正化・虐待防止検討委員会」を設置している。月に1回、全体介護の中で実施し、議事録の回覧で周知を図っている。委員会では、拘束・虐待事例0件の確認と、スピーチロック(言葉による行動制限)や不適切な対応の防止に向け検討している。ユニットのドアと玄関の開錠は操作が必要であるが、利用者に外出の希望があれば、玄関ホール・テラス・ベランダ等を活用し、閉塞感を感じないように対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、全体会議の際に「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、現状についての確認や定期的な研修を行っております。	高齢者虐待防止についても、身体拘束適正化と同様の方法で年2回の研修と毎月の委員会を実施し、不適切ケアの防止に向け取り組んでいる。全体会議等でも注意喚起している。管理者が各フロアをラウンドして、適宜職員に声かけを行い、相談しやすく協力し合える環境づくりに努め、ストレスチェック・有給休暇取得促進等により、職員のストレスや不安がケアに影響しないよう取り組んでいる。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修等で権利擁護やそれに関する制度を学習する場をもち、お客様へ出来る事、出来ない事を把握し支援しています。	成年後見制度を利用している利用者があり、金銭管理関係の書類の提供や利用者の状況の報告等、制度利用を支援している。今後も、制度利用の必要性や家族等から相談があれば、管理者が窓口となり、法人や関係機関と連携して支援する仕組みがある。	開設前研修で権利擁護に関する制度について研修を実施している。今後も、定期的に学ぶ機会を設けることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をしっかり取り、説明を行っております。また今回の法改正で改定された分に関しても、重要事項説明書(別紙)にて取り交わしを行いました。	入居希望には、電話や来訪時にパンフレットや料金表をもとに丁寧な説明に努めている。見学にも、可能な範囲で対応している。契約時は、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って説明し、文書で同意を得ている。料金や緊急時・重度化対応については特に詳細に説明し、不安の軽減に努めている。契約内容に改定がある場合は、変更内容を重要事項説明書別紙で説明し、同意書で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を用意し、誰でも意見が言える環境を作っております。	日々の会話の中で利用者個々の意見・要望の把握に努め、食事の内容やレクリエーション等に反映できるよう取組んでいる。家族の来訪時・面会時・電話対応時に利用者の近況を報告し、意見・要望の把握に努めている。写真を多数掲載した「そよ風通信」を毎月郵送し、行事や生活の様子を伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。年に1回法人が実施する満足度調査の結果も、運営やサービスに反映している。把握した意見・要望は、申し送りノートや会議で共有し、面会や体操・脳トレ・ドライブ等の活動に反映している。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員面談等を行い、不安や不満等の確認を行っています。	月に1回、全体会議・ユニット会議を実施している。全体会議は全職員対象に実施し、法人・事業所情報の共有、「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」、事業所内研修を行っている。ユニット会議は、各ユニットリーダーが事前に議題を収集し、業務・行事・利用者についての検討・共有を効率的に行い、担当者会議も実施している。会議に参加できなかった職員には、議事録の回覧により周知を図っている。管理者が、定期的(年1回)、随時に個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度「人事考課」を実施し、労働実績や功績によって、給料の見直しを行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力を把握し、定期的に指導や研修を実施しています。社内研修や資格取得に向けての勉強会等に参加するよう周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫県内に8か所の系列施設があり、定期的に研修等に行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の個々の声や要望を大事にし、可能な限り応えるようにしています。(食事の内容やドライブに行きたい場所等)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしています。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には、外部のサービスには頼らず、センター内でできるかどうかの確認を行います。不可能な場合や本人や家族の強い希望があった際に実施しております（訪問リハ等）		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に「家」として対応するよう職員に指導・説明をしており、過度な介護サービスを行わず、一緒に何かをするようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時以外であっても、良かったことや新しく発見した事等を報告するようしております。また居室担当を決めており、担当者と家族の関係を深めるようにも工夫しております。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ということもあり、面会は禁止していましたがワクチン接種や検温、消毒等を実施し、短時間の面会をして頂いています。また、人込みを避けた外出（お墓参り等）の機会を増やしています。	馴染みの人や場所についての情報があれば、アセスメント表に記載している。コロナ禍のため、馴染みの人との面会や交流、馴染みの場所への外出が困難な状況であるが、時期や予防策を勘案した家族との短時間面会や外出、年賀状の作成支援、「そよ風通信」の発行等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々レクリエーションや体操等を行い、居室内等で孤独にならない環境にしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	水光熱費や食材料費の精算・返金の際に連絡し様子をお聞きしています。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようにしております。	入居前の面談で把握した情報を、アセスメント表の生活歴や趣味・特技・一日の過ごし方欄等に記録し、利用者個々の思いや暮らし方の希望を入居後の生活に活かせるよう取り組んでいる。入居後の会話の中で把握した思いや意向は、介護記録や申し送りノートで共有し、内容に応じてアセスメント表に追記している。把握が困難な利用者については、会話の中で引き出せるように工夫したり、家族からの情報を参考に把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関しては、お客様の状況や家族の思い等を確認し、可能な限り応えるようにしています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通して、得意な事、不得意な事を把握し出来ることは手伝った利してもらっています。(家事等)		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の更新等の際は、モニタリングやアセスメントを行い、ユニット会議や担当者会議にて現状の確認等を行った後に、作成するようにしております。	「アセスメント表」をもとに、初回の「介護計画」を作成している。日々のサービス実施は「介護記録」と「モニタリング一覧」に記録している。「モニタリング一覧」は、介護計画のサービス内容毎に実施状況をチェックする書式で、職員が計画内容を理解し、介護計画に沿った実施状況を記録する書式となっている。検討事項があればユニット会議で検討し、介護計画は、必要時には随時に、定期的には6ヶ月毎に見直しを行っている。見直しの際は、「モニタリング総括表」で評価を、「アセスメント表」で再アセスメントを行い、ユニット会議で担当者会議を行っている。	

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々モニタリングを実施し、気づき等があった際には記録や申し送りノート等に残すようにしております。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のADL等に変化があった際は、柔軟に対応しております。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、地域資源の活用ができておりません。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、往診医が来ております。 また24時間対応も可能であり、夜間等の連絡にも応じてくれます。	協力医療機関から、週1回内科医の往診と訪問看護があり、24時間の医療連携体制が整備されている。希望に応じて、精神科・歯科の往診も受けられる体制がある。主治医が通院を要すると判断した場合は、主治医から通院先の医療機関に情報提供している。家族の同行を基本としているが、状況に応じて職員が同行している。往診・通院については「介護記録」に記録し、「申し送りノート」で職員共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護が来ております。 医療連携体制加算も取得しており、24時間の対応も可能となっております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院の医療連携室のソーシャルワーカーと定期的な連絡・連携を図り、ご本人様が退院しても安心して頂けるようにしております。	入院時は、事業所から「介護サマリー」を提出し情報提供している。入院中は面会が困難な状況であるため、家族や病院の医療連携室と主に電話で情報交換し、早期退院に向け支援している。退院前には、家族・医療連携室から改めて状況を把握し、「看護サマリー」の提供を受けて、退院後の支援に活かしている。入院中・退院前の情報については、「介護記録」に記録し職員に周知を図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された方はいませんが、入居時に重度化の指針の説明を行い「看取り」も可能であることを伝えております。	契約時に、「認知症対応型共同生活介護における重度化した場合の対応・急性期における医師及び医療機関との連携体制・看取り対応に関する指針」に沿って、事業所の方針を説明し同意を得ている。現在までに、重度化・看取りの事例はない。今後の重度化の事例については、主治医・家族を交えてカンファレンスを行い、家族に看取り介護の希望があれば、看取りの同意書を交わし、看取りの介護計画をに家族の同意を得て、主治医・訪問看護師など関係者と連携をとり家族の意向に沿った支援に取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故があった際は、事故報告フローに沿って対応しております。また、研修等も定期的に行っており、対応が遅れないようにしております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 番号	第三者 番号	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の消防訓練を実施し、自然災害や火災等があった際の対応等の訓練を実施しております。地域の消防訓練に関しては、コロナの影響により開催されておりません。	年間スケジュールに沿って、9月に日中想定 の火災・自然災害対応の避難訓練を、3月に 夜間想定 の火災対応の避難訓練を実施して いる。「防災訓練計画書」「防災訓練報告書」 を作成し、回覧により訓練に参加できなかった 職員にも周知を図っている。3月には「非常 災害対策について」の研修も実施している。 備蓄は法人が支給・管理し、事業所の倉庫 に3日分の物品を保管している。地域の消防 訓練が再開された際には参加し、地域との協 力体制を構築する方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	お客様と職員との顔なじみの関係が出来て きており、なあなあにならないよう、声掛けに は十分注意をしています。	「身体拘束等の適正化」「認知症ケア」等の研 修を通して、人格尊重、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会 を設けている。また、全体会議や「身体拘束・ 虐待防止委員会」からも、随時注意事項を発 信している。個人ファイルは施錠できる書庫 に保管し、「そよ風通信」等での利用者の写 真使用については契約時に同意書を得る 等、プライバシー・個人情報の適切な管理に 努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	定期的にお客様に対して要望等を確認して おり、可能なことに関しては対応するよう にしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはお客様に自由に過ごしていただ いておりますが、居室にて過ごすことが多い 方に関しては、フロアでのレクや体操に参加 して頂くよう声かけしております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にご本人様に任せておりますが、同じ服装ばかりになってしまう方に関しては、起床時にご本人様にその日の洋服について声かけを行い決めて頂いております。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナの影響もありますが、しっかりと感染対策を行い、盛り付けや食器を洗ったり等を手伝って頂いています。	法人の管理栄養士が献立を作成し、事業所で食材を発注し、各フロアで毎食手作りの食事を提供している。献立は、季節感や行事食を取り入れ工夫されている。各ユニットで利用者の希望や嗜好に配慮したアレンジを加え、ユニットの個性が表れている。毎日の検食簿と、法人による3ヶ月毎の食事アンケートの結果から、栄養管理士が利用者の嗜好や意向を献立に反映させている。利用者個々の体調や状況に応じた食事形態には、各ユニットが対応している。行事食・誕生日会・屋外テラスでのバーベキュー・おやつレクリエーション等、変化を楽しめる多様な機会を設けている。調理・盛り付け・食器洗い等、可能な利用者が参加できるよう支援している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	性別や体格、病状によって食事の内容を変えております。(減塩、主食の量の調整等)		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、口腔ケアの声かけ等を行い実施して頂いております。また訪問歯科とも連携しており、定期的に口腔内の確認を行っております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、失禁等がないように注意しております。また夜間のパット等に関しても、無駄が出ないようにサイズや容量、金額等を検討してから使用するようしております。	排泄の自立度が高く、概ね自立している状況である。排泄チェック別表と介護記録に排泄状況を記録し、必要に応じて声かけや確認を行い、トイレでの排泄・排泄の自立が継続できるよう支援している。失敗や不快感の軽減、排泄用品の適正な使用にも配慮している。検討事項があれば、申し送りノートやユニット会議で検討・共有し、現状に即した支援方法や排泄用品の使用につなげている。また、トイレのドアをオレンジ色でわかりやすく表示し、排泄の自立につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、体操や近隣への散歩等の運動を実施し、乳酸菌を多く含む食材(ヨーグルトや乳酸菌飲料、食物繊維の多いもの等)を提供しております。			
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回の実施としており、平等性と定期的な清潔保持の為に、曜日を固定しております。	週2回の入浴を基本とし、入浴チェック表別表と介護記録に入浴状況を記録している。一般浴槽の個浴で一人ずつ湯を入れ替え、利用者個々のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。主治医からの指示がある場合はシャワー浴で対応しているが、概ね、浴槽での入浴を支援している。必要に応じて、声かけ・タイミング・対応する職員等を工夫し、円滑に入浴できるよう個別の配慮を行っている。入浴剤の使用・ゆず湯・菖蒲湯等、入浴がより楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠に関しては、ご本人様の自由としており、こちらから入眠を促すことはほとんどありません。また朝に関しても、無理して起きて頂くのではなく、お客様のペースにて起きて頂いております。			

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様の薬に関しては、往診医や薬局の薬剤師等と現状の報告・確認を行い、定期的に内容や量の調整等を行っております。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的にお客様に対して要望等を確認しており、可能なことに関しては対応するようにしております。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、遠出はできておりませんが、近隣の散歩やドライブ等を行い、気分転換して頂くようにしております。	天候や希望に沿って、近隣への散歩に出かけたり、花見・紅葉・利用者の希望の場所にドライブ外出する等、可能な方法で外出支援に取り組んでいる。庭の花壇や畑で花や野菜の水やりや収穫を行ったり、テラスで外気浴やお茶を楽しむ等、戸外で気分転換する機会づくりに努めている。コロナ禍終息後は、外出行事・買い物・外食等、積極的な外出支援を予定している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には紛失が無いように、金庫にて預かっており、必要な時には職員と一緒に買い物に行くようにしております。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、自由に電話ができる環境にはしてませんが、ご本人様の状態等にて必要がある場合のみ、ご家族様等へ連絡するようにしております。また手紙に関しては、年賀状等にて実施しております。		

神戸須磨ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやイス等にて、フロアにてゆっくりできる環境になっております。またトイレはオレンジ色にし、他の方の居室と間違わないような工夫もしております。	緑に囲まれた高台に立地し、大きなガラス扉からの採光で明るく、眺望よく開放感がある。木調で落ち着いた家庭的な雰囲気があり、テーブル席・ソファ・4種類の飲料の給茶機が配置され、くつろげる環境である。季節の装飾品や、利用者と共に制作した作品を飾り、季節感が感じられる。キッチンから手作り調理の音や匂いが感じられ、利用者も家事に参加し生活感を取り入れている。個別レクリエーションに使用する道具・本等を棚に用意し、利用者が主体的に日中活動できるよう支援している。1階のテラスや庭(花壇・畑)、2階のベランダも共用空間として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いており、ゆっくりできるスペースを確保しております。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族やご本人様にとって思い出のある物等を持参して頂き、「自分の部屋」と認識して頂けるように工夫しております。	居室は大きな窓からの採光で明るく、眺望が良い。ベッド・クローゼット・エアコン等が備え付けられ、夜は白色・暖色の明かりを好みで調整している。筆筒・椅子・テレビ・寝具等の使い慣れた家具や道具、仏壇・家族の写真・人形等馴染みのある物が持ち込まれている。動線を考慮して家具を配置し、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。居室担当職員を決め、本人・家族と話し合いながら、衣替え支援や環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造になっており、フロア内に関しては自由に移動できるようになっております。		